

病防第34号  
平成14年4月12日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除所長  
(公印省略)

発生予察特殊報について  
平成14年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します

## 平成14年度病害虫発生予察特殊報第1号

### 1. 特殊報の内容

- (1) 病害虫名：レタスビッグベイン病
- (2) 病原菌：*Lettuce big-vein virus* (LBVV)
- (3) 作物名：レタス
- (4) 初発生確認月日：平成14年2月
- (5) 初発生確認場所：糸満市名城
- (6) 分布：国内での発生は和歌山県・長野県・静岡県・埼玉県・香川県・千葉県で発生が確認されている。  
また国外では、アメリカ、ヨーロッパ諸国、ニュージーランドでの発生が知られている。

### 2. 本病の発生経過

- (1) 平成14年2月、糸満市名城のレタスほ場で葉が葉脈に沿って退色し、葉脈が太く見える株が発見された。この症状はレタスビッグベイン病に類似しているため、近畿中国四国農業研究センターウイルス病研究室石川浩一室長に同定依頼したところ、同病害であることが確認された。レタスビッグベイン病の沖縄県での発生は初めてである。
- (2) 平成14年3月14日に南部、3月29日に中北部の一斉調査をそれぞれ行った結果、糸満市名城のほ場以外で同病の発生は確認されなかった。

### 3. 本病の症状と伝搬方法

- (1) 症状：葉が葉脈に沿って退色し、葉脈が太く見える。症状の激しいものは生育不良となり、結球時期が遅れる。文献によるとほ場で感染した場合は定植40日後から発病、症状は15～20℃ではっきりするが、それ以上の温度では不明瞭になる。苗床で感染した場合は定植後から発病する。
- (2) 伝搬：本病は、土壌伝染性で種子伝染やアブラムシ類などの虫媒伝染は起こらない。ウイルスは土壌中でオルピディウム属菌 (*Olpidium brassicae*) の遊走子によって伝搬される。この菌はウイルス伝搬者として問題となるが、レタスの根に寄生しても直接害はもたらさない。

### 4. 防除対策

- (1) 発生ほ場  
クロルピクリン剤等による土壌消毒を行う。  
太陽熱土壌消毒の有効性が報告されている。
- (2) 汚染ほ場の拡大防止  
発生ほ場の土をほ場に持ち込まない。  
発生ほ場で使用した鍬や機械類は洗浄消毒を行う。  
無病土での育苗を行う。